

生き生きレポート

発行：神奈川県ネットワーク運動・平塚

〒254-0033 平塚市老松町 16-3-103

発行責任：佐藤秀子

http://hiratsuka.kgnet.gr.jp/

Tel/Fax 0463-22-7732

デニキを選べば社会が変わる！

－自然エネルギーの電気を選ぼう！－

2011年東日本大震災に起因し発生した福島第一原発の重大事故は、放射性物質による環境・食品・人体への影響と、市民生活への言語では言い尽くせない甚大な影響を及ぼしました。いまだ故郷に帰れず避難生活を送っている人は約8万人とも言われ、2度と原発事故を起こさない社会づくりを進めていくことの必要性を多くの市民が感じています。廃炉決定も含め約60基ある原発の内、稼働しているのは6月営業運転再開予定の高浜4号機も含めて4基。原発がなくても生活していけるの思いは、原発事故後の多くの市民の実感です。

◆小売全面自由化で家庭の電気も選べる時代に

大手電力会社が独占していた電力小売事業への参入が自由化されたのは2000年です。はじめは大規模工場やデパート、オフィスビルを対象に部分自由化が導入、2004年からは中規模工場や中小ビル、2005年からは50kw以上の事業所に拡大されました。その約10年後の2016年4月から家庭や商店などすべての消費者が電力会社や料金メニューを自由に選べるようになりました。

◆市民の選択で持続可能なエネルギー社会づくりを

電力小売全面自由化は、私たちに脱原発への選択枝を作りました。原子力、そして化石燃料に依らない自然エネルギーの電気を使う市民が増えることで、社会全体を持続可能なエネルギー社会に変えていくことが必要です。

昨年4月以来自然エネルギーを中心とした電力供給を目指す新電力会社が生まれています。ネット平塚でも2回にわたり学習会を開催し、電気共同購入を行っている「生活クラブエネジー」や、エネルギーの地産地消を謳う「湘南のどんき」の取組を学びました。

「湘南のどんき」は今年の4月から平塚市内43の公立小中学校での供給が始まっています。



上：学習会 下：パワーシフトのステッカー

ここが問題！スマートメーター —プライバシーを守る対策を—

電力小売全面自由化に合わせ、国は各家庭に設置されている検針メーターを、従来のアナログ方式から通信機能付きデジタル方式のスマートメーターに切り替える計画です。スマートメーターは各家庭等の電力使用量を30分ごとに電力会社へ自動送信するもので、検針員による検針が不要となります。家庭内にHEMSという装置を設置しスマートメーターと接続することで、消費者が電気使用量の推移を即時に把握でき、それによって節電意識を高めたり、真夏の昼の電気料金を高くするなどの料金設定で節電を促すなどの効果があるとしています。しかし一方、消費者の生活パターンがある程度推測できたり、またデータを新ビジネスの為に提供することも想定されており、市民のプライバシーを侵害する恐れがあります。電磁波の影響を心配する声もあります。オランダのようにスマートメーターを選択制にするなど対策が必要です。

資本力や宣伝力が大手に比べ不足している新電力を、市民そして自治体が応援し、エネルギーをシフトしていくアクションに取組んでいきます。